

東京都中小企業収益動向調査

－平成24年度の収益動向と平成25年度の収益見通し－

《 概要 》

○平成24年度の「増収企業」の割合は4年連続で回復し39.1%

平成24年度の売上高が前年度よりも増加した企業（増収企業）の割合は39.1%となった。4年連続で回復し、リーマンショック前の19年度の水準を上回った。

○平成24年度の「増益企業」は19.1%、「減益企業」は48.3%で6年ぶりに半数を下回る

平成24年度の経常利益が前年度よりも増加した企業（増益企業）は19.1%（前年度19.8%）とわずかに減少した。経常利益が減少した企業（減益企業）は48.3%（同51.7%）と3.4ポイント減少し、18年度以降6年ぶりに半数を下回った。

○平成24年度の経常利益増減の主な要因は「販売数量」が最多

平成24年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高い。前年度比でみると、減益企業では「原材料・仕入価格」10.9%（前年度5.5%）が5.4ポイント増加した。

○平成24年度の採算状況は黒字企業が33.8%と4年連続で増加

平成24年度の採算状況は、黒字企業が33.8%と4年連続で増加した。採算状況をDI値（黒字企業－赤字企業）でみると、全業種・全規模で上昇し、採算状況は改善傾向にある。

○平成25年度の収益見通しは「好転」が16.0%、「悪化」が35.2%

平成25年度の収益見通しについては、「好転」が16.0%（前年度13.5%）、「不変」が48.8%（同46.7%）、「悪化」が35.2%（同39.7%）となった。収益見通しをDI値（「好転」を見込む企業－「悪化」を見込む企業）でみると、全業種・全規模で上昇し、見通しが改善した。

1. 平成24年度の売上高の状況

平成24年度の売上高が前年度よりも増加した企業（以下「増収企業」）の割合は39.1%、前年度よりも減少した企業の割合は60.9%だった。

18年度以降の推移をみると、増収企業の割合は20年度に大幅に落ち込んだ後、21年度から4年連続で回復しており、24年度はリーマンショック前の19年度の水準を上回った。

図表1 増収企業の推移（全体）

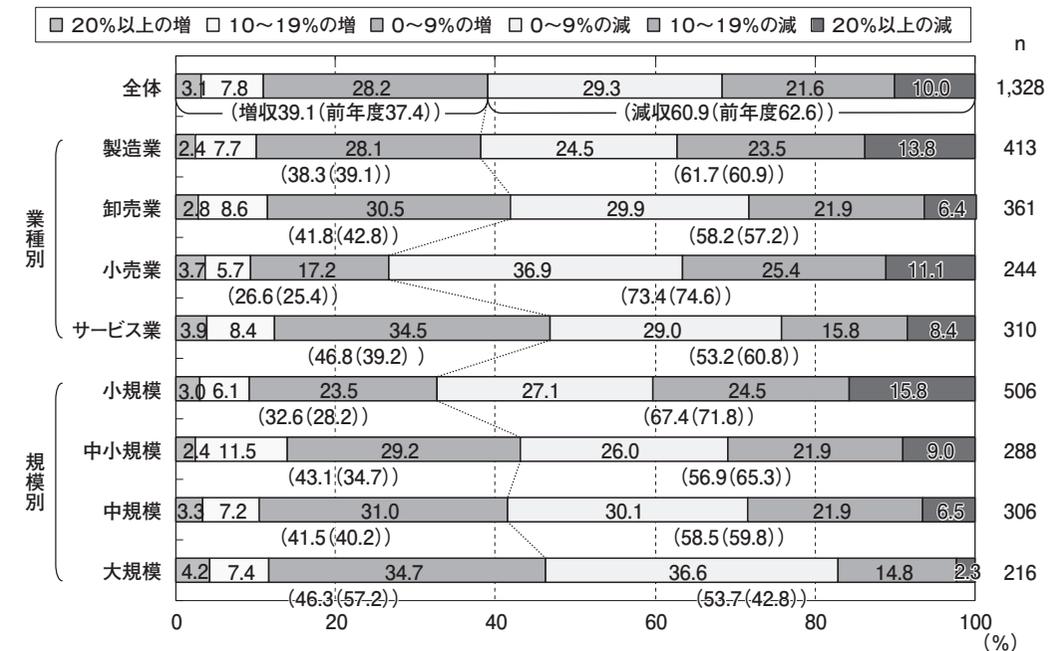
（単位：%）

18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
44.3	38.3	22.9	25.5	36.3	37.4	39.1

増収企業の割合を業種別にみると、サービス業が46.8%（前年度39.2%）と前年度比で7.6ポイント増加し、他の業種に比べて最も増収企業の割合が高くなった。小売業26.6%（同25.4%）は増加、製造業38.3%（同39.1%）と卸売業41.8%（同42.8%）は減少したが、いずれも1ポイント前後のわずかな増減に止まった。

規模別にみると、大規模46.3%（同57.2%）は増収企業が減少し、3年ぶりに半数を下回った。一方、他の規模では増収企業が増加し、大規模との差を縮めた。

図表2 平成24年度の売上高の状況（業種別・規模別）



注) () 内は増収減収の合計及び前回24年9月調査の増収減収の合計。
無回答、規模不明を除く。四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

2. 平成24年度の経常利益の状況

平成24年度の経常利益が前年度よりも増加した企業（以下「増益企業」）は19.1%（前年度19.8%）とわずかに減少した。経常利益が減少した企業（以下「減益企業」）は48.3%（同51.7%）と3.4ポイント減少し、18年度以降6年ぶりに半数を下回った。売上高が増加傾向にあるなか（図表1参照）、減益企業が減り、前年度比「横ばい」32.6%（同28.5%）とした企業が増加した。

図表3 増益企業、減益企業の推移（全体）

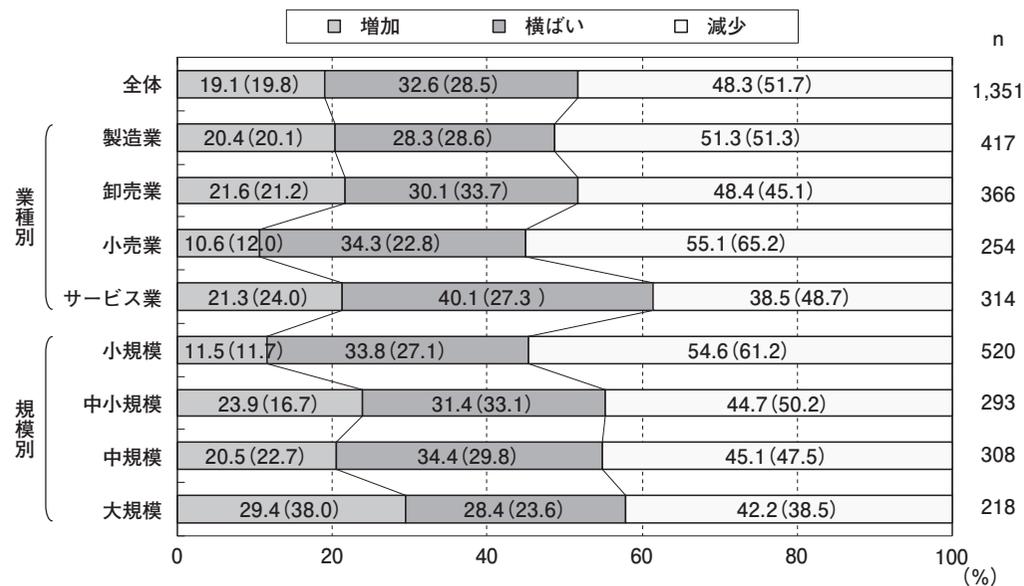
（単位：%）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
増益企業	21.3	16.7	10.3	15.3	22.3	19.8	19.1
減益企業	45.7	54.8	67.8	61.3	51.7	51.7	48.3

業種別にみると、卸売業では減益企業48.4%（前年度45.1%）が3.3ポイント増加し、やや状況が悪化した。一方、サービス業と小売業は、減益企業がともに10ポイント以上減少し、「横ばい」の企業が増加した。サービス業では減益企業が38.5%と他の業種に比べて最も少なくなっている。

規模別にみると、中小規模では増益企業23.9%（同16.7%）が増加、減益企業44.7%（同50.2%）が減少して、収益状況が改善した。一方、大規模は増益企業29.4%（同38.0%）が大幅に減少、減益企業42.2%（同38.5%）が増加し、悪化した。

図表4 平成24年度の経常利益の状況（業種別・規模別）

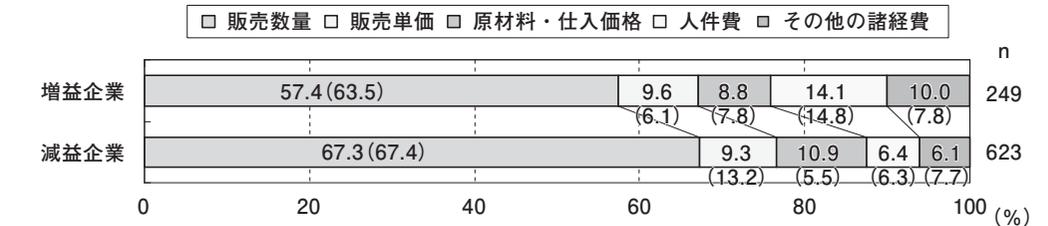


注) ()内は、前回24年9月調査。無回答、規模不明を除く。四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

3. 経常利益増減の主な要因

平成24年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高い。前年度比でみると、増益企業では「販売数量」57.4%（前年度63.5%）が6.1ポイント減少し、「販売単価」9.6%（同6.1%）などが増加した。減益企業では「原材料・仕入価格」10.9%（同5.5%）が5.4ポイント増加しており、原材料・仕入価格が利益を圧迫したとする企業が増えた。

図表5 増益、減益企業別の経常利益増減の主な要因

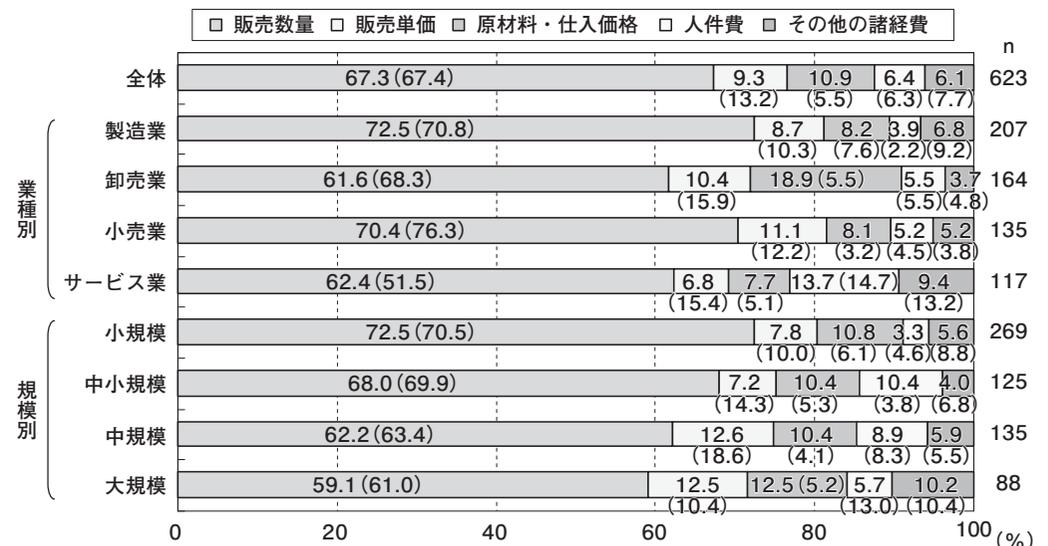


注) ()内は前回24年9月調査。無回答を除く。四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

減益企業における経常利益減少の主な要因を業種別にみると、卸売業では「原材料・仕入価格」18.9%（前年度5.5%）が前年度から13.4ポイント増加し、他の業種に比べても特に高くなっている。サービス業では「販売単価」6.8%（同15.4%）が減少した一方で、「販売数量」62.4%（同51.5%）が増加した。

規模別にみると、規模が小さくなるほど「販売数量」の割合が高くなり小規模では72.5%を占めた。大規模では「人件費」5.7%（同13.0%）が減少し、「原材料・仕入価格」12.5%（同5.2%）が増加した。

図表6 経常利益減少の主な要因（業種別・規模別）



注) ()内は、前回24年9月調査。無回答、規模不明を除く。四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

4. 平成24年度の採算状況

平成24年度の採算状況は、黒字企業が33.8%、収支均衡企業が27.0%、赤字企業が39.2%となった。18年度以降の推移をみると、黒字企業は20年度に大きく減少した後、4年連続で増加した。また、赤字企業は4年連続で減少、5年ぶりに4割を下回っており、採算状況は改善傾向にある。

図表7 黒字企業、赤字企業の推移（全体）

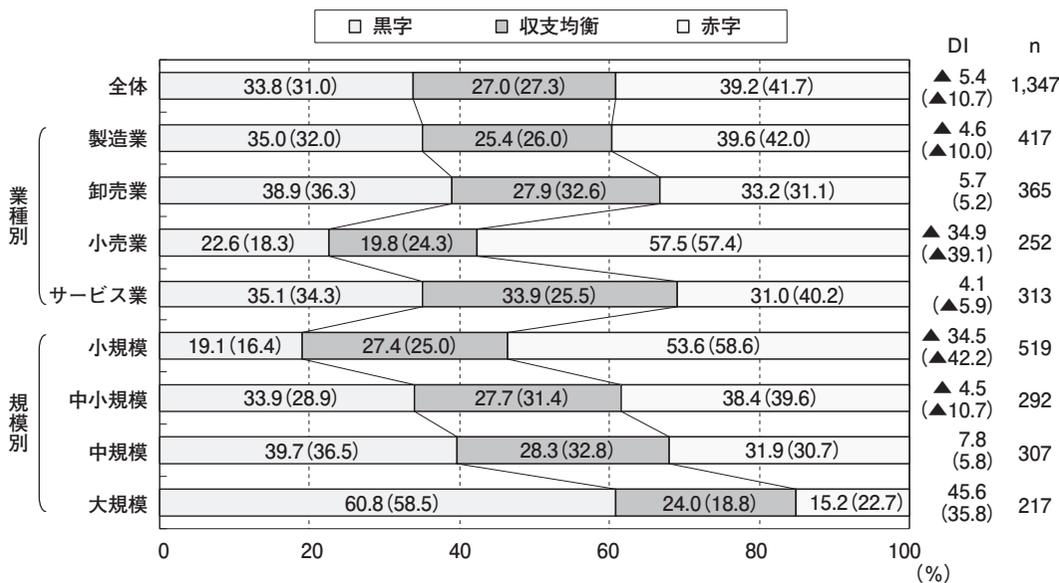
（単位：%）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
黒字企業	34.3	30.9	23.0	26.1	29.8	31.0	33.8
赤字企業	32.3	37.1	49.7	47.8	42.2	41.7	39.2

業種別に24年度の採算状況をDI値（黒字企業－赤字企業）でみると、全業種でDI値が上昇し、採算状況が改善した。特に、サービス業4.1（前年度▲5.9）は赤字企業の減少によりDI値が大きく改善し、卸売業5.7（同5.2）とともに、黒字企業が赤字企業を上回る状況となった。小売業▲34.9（同▲39.1）も4.2ポイント改善したが、他の業種に比べると厳しい状況が続いている。

規模別にみても、全規模でDI値が上昇し、特に大規模45.6（同35.8）の改善幅が大きい。規模が大きくなるほどDI値が高くなっており、規模差が大きい。

図表8 平成24年度の採算状況（業種別・規模別）



注) ()内は、前回24年9月調査。無回答、規模不明を除く。四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

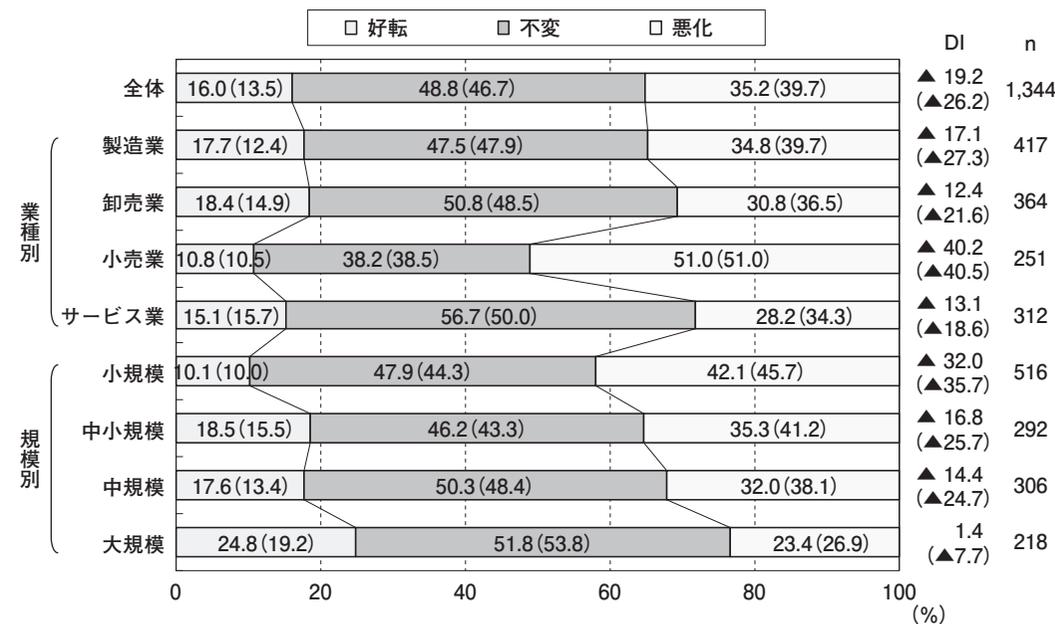
5. 平成25年度の収益見通し

平成25年度の収益見通しについては、「好転」が16.0%（前年度13.5%）、「不変」が48.8%（同46.7%）、「悪化」が35.2%（同39.7%）となった。前年度に続き、「好転」が増加、「悪化」が減少しており、見通しが改善しつつある。

業種別に収益見通しをDI値（「好転」を見込む企業－「悪化」を見込む企業）でみると、全業種でDI値が上昇し、見通しが改善した。特に製造業▲17.1（前年度▲27.3）と卸売業▲12.4（同▲21.6）の改善幅が大きい。一方、厳しい水準にある小売業▲40.2（同▲40.5）は改善幅がわずかで、他の業種との差が広がった。

規模別にみても、全規模でDI値が上昇したが、他の規模が9～10ポイント近く改善したのに対し、小規模のみ3.7ポイントと小幅の改善に止まった。大規模1.4（同▲7.7）は、唯一DI値がプラスとなり、「好転」が「悪化」を上回った。

図表9 平成25年度の収益見通し（業種別・規模別）



注) ()内は、前回24年9月調査。無回答、規模不明を除く。四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。